

森あやこ ニュース

発行: 福岡市議会議員 森あやこ

〒813-0044 福岡市東区千早5-17-18 TKビル2号館1階

TEL.092-662-5077 / FAX.092-662-5097

<http://ayako966.blog.fc2.com/>

Ayako Mori News



2021
冬春
号

[p2]新型コロナ対策などの補正予算が可決 / [p2-3]都市高速の延伸は不要不急! 道路整備計画について意見提出を!

ワクチンの副作用を知っていますか?

不妊で悩まれている方が増えています

12月議会で不妊治療について質問しました。女性に対してだけでなく男性に対する相談やカウンセリングなどの支援も充実を図るよう求めました。

昨年12月4日、第三者から卵子や精子の提供を

受けた生殖補助医療で生まれた子どもの親子関係を明確にする民法特例法が成立しましたが、生殖補助医療の安全性や技術的な課題、倫理的な問題などが残されています。

“未来のいのちの源”を守る必要性あり!

厚生労働省はHPV(ヒトパピローマウイルス)ワクチンの男性への接種も承認する方針を決めましたが、いくつかのワクチンに使われる補助剤が特発性無精子症などの自己免疫疾患に結びついているという指摘もあります。何より実際にワクチンの副作用で非常に苦しんでいる方々がいらっしゃいます。

環境中の有毒物質や、飲料水中の薬品などが原因ではないかとみられる、いわゆる環境ホルモン(内分

泌擾乱化学物質)が生殖システムにもたらす危険性を専門家は指摘しています。2004年にモントリオールで開催された第18回世界不妊学会では、男性の不妊発生率が世界的に急上昇し、人間だけでなく、動物や魚などでも、精子の数が過去50年ほどの間減少し続けているという研究報告が発表されました。2017年の水資源・環境学会の論文でも「不妊症」「不育症」「男性生殖器官異常」などが報告されています。

慎重な判断を!

環境中でも影響がある化学物質。体に直接取り込む薬やワクチンは、影響が大きく現れます。最近では減薬・断薬の勧めも広がっています。インフルエンザをはじめ、ワクチンの効果と副作用について

しっかり医師に確認することが重要です。

どうぞ、ご自分やご家族の体のサインに耳を澄ませて慎重に判断してください。

生活って政治! 「住んでるまちを 住み続けられるまちに」市民とともに

「暮らしのための議会」を実現するため、皆さんのご意見や思いを聞かせてください。

事務所

092-662-5077



森あやこ 公式ブログ
<http://ayako966.blog.fc2.com/>

— このニュースは、議員活動の一環として、税金から賄われる「政務活動費」を用い発行しています —



男性も不妊治療しやすいように 支援体制の充実を

厚生労働省の調査によると、不妊の心配をしたことがある夫婦の割合は35%（2015年）。福岡市は2017年11月に不妊専門相談センターを開設し、相談件数は年々増え、不妊治療費の助成額は増えていますが、不妊で悩まれている方たちへの支援は十分に行き届いていないのが現状です。

WHO（世界保健機構）の調査によると、不妊原因の男女の割合は、▼女性のみ…41%、▼男性のみ…24%、▼男女双方…24%、▼原因不明…11%。女性への支援体制の充実とともに、男性も早い段階で検査や治療に進めるよう相談やカウンセリングの体制をもっと整えることを要望し、切れ目のない施策によって誰もが大切にされる市政運営を強く求めました。

あわせて、ワクチンに使われる補助剤や環境ホルモンが生殖システムに影響し不妊の増加に繋がっている可能性があることについて意見を述べました。

※ワクチンの補助剤には、神経毒である塩化アルミニウムやホルマリンなどが使われています。ワクチンの添付文書にはこの副作用も書かれていますので、お医者さんに確認してみてください。

豊かな自然の恵みを 未来へ残しましょう



生物多様性（生きものたちの豊かな個性とつながり）は、すべての生命が存立する基盤であり、私たち人間の社会経済活動の基盤です。人も生物多様性の一員ですが、今それが危機に瀕しています。具体的には、▼人間活動や生きものの生息・生育環境の悪化による危機、▼人間による里地里山などの自然への働きかけの縮小による危機、▼外来種など人間ににより持ち込まれたものによる危機、▼地球温暖化など気候変動による危機があり、絶滅速度は過去と比べて100～1000倍と言われています。

新鮮で豊富な食材に支えられた食文化や、潮干狩りや紅葉狩りなどの身近な自然が福岡市の魅力ですが、市の環境施策の出発点である「ふくおか環境元年宣言」（1992年）以降も環境が悪化しています。高島市長が旗振り役として生物多様性の保全に積極的に取り組むことを求めました。

“いのち”を政治のど真ん中に！

12月議会 トピックス

▣ 新型コロナ対策など の補正予算が可決

今議会では、新型コロナ対策、市職員及び特別職の12月期の期末手当の減額、西新小学校用地取得などを含む補正予算案が可決しました。

コロナ禍での期末手当の減額は、市長や議員などの特別職はあってしかるべきと考えますが、一般職員については感染症対策で長時間労働するなど市民生活を支えており、また賃金引き下げの連鎖はいっそう地域経済を疲弊させるため、反対意見を述べました。

また西新小学校用地取得については、2025年には41学級が見込まれており、教室不足のためやむを得ない措置と言えますが、そもそもこのような事態を招いているのは、マンション建設を規制しない高島市政が原因です。神戸市では開発規制がすでに行われています。今回の用地取得費に17億円かかりますが、将来は空き教室になることが

明白であり、乱開発への規制を求めました。

▣ 指定管理制度は問題あり！

毎年12月議会は、さまざまな公共施設に関する指定管理者の指定についての議案がかかります。超高齢化社会が進む今日、高齢者としての生きがいづくり、仕事づくりを目的としたシルバー人材センターのより一層の支援が必要であり、駐輪場の指定管理制度は問題です。

また、専門的知見を必要とする図書館運営については、図書館法の趣旨に則り、民間に任すべきではありません。民間事業者が運営する場合、市直営ではかかる費用（利潤、税金、金融機関の利息が高いなど）が生じることから、そのしわ寄せが人件費の削減という形で現れます。また、今回の早良南図書館における選定では、司書の配置に関する基準を緩和するなど、不適切な選定が行われた疑いが委員会でも指摘されました。

無償でオーガニック給食を！

福岡市では栄養バランスや食文化の継承に取り組んでいることは評価できますが、食の安全や食育についてさらに良い給食にしていく必要があります。

世界ではオーガニック給食が拡がり始めています。韓国のソウル市では、2021年にすべての小中高校での「オーガニック無償給食」を全面施行の予定です。農水省も今年からオーガニック給食を進めるために1億5千万円の予算をつけています。千葉県いすみ市は有機米100%の給食を実施しています。

教育委員会は「規模が大きいので難しい」としていますが、まずパン食をやめて100%米飯給食にし、次に周辺自治体や県と協力して100%有機米の学校給食にするなどの取り組みから始めることはできるのではないでしょうか。福岡市でも給食のオーガニック化および無償化を求めました。



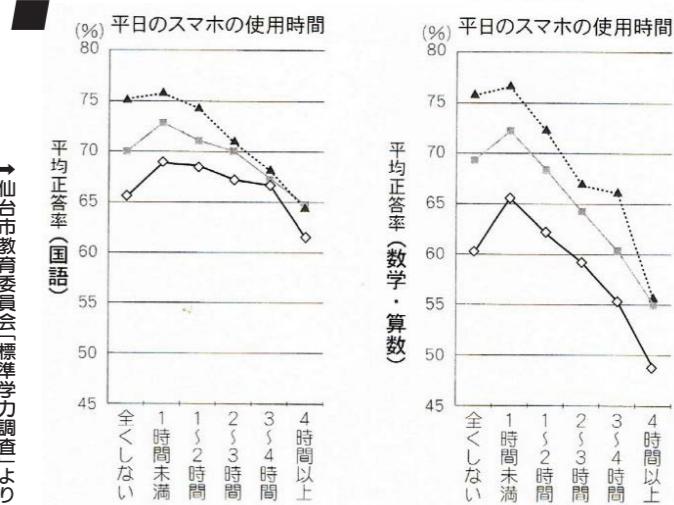
ICT教育にはリスクや限界も！ 電磁波やブルーライトの問題あり

ICT（情報通信技術）教育を進める政府の「GIGAスクール構想」に沿って、福岡市でも児童生徒すべてにタブレットの貸与と高速ネットワーク設備の設置が行われました。世界的に、ブルーライトや電磁波による健康被害や学習障害が問題となっていますが、教育委員会は「医学的評価が定まっていない」として、対策を取ろうとしていません。

電磁波過敏症の方は日本に3.0～5.7%いると言われており、きちんと調査し対策をとるべきです。フランスでは幼稚園や託児所でのWi-Fi設置が禁止されています。本来は有線LANにすべきですが、やむを得ず無線LANを使用する場合は使用時のみスイッチを入れるという使い方にすべきです。

また、スマホの使用時間が増えると成績低下に繋がるという調査結果もあり、リスクや限界に注意しながらICT教育を進める必要があります。

スマートフォンの使用時間と 成績低下の関係



▣ 空港への都市高速延伸は不要不急です！

空港へのアクセス強化や空港周辺道路の混雑緩和などを理由に福岡高速3号線の延伸に関する議案がありました。私たちは当初から反対していますが、コロナ禍の中、今後の社会のあり方を見据えた上で、改めて不要不急の事業であると反対討論しました。

2018年に行われた道路に関する市民アンケートでも、都市高速の延伸を求める声はわずか1.9%しかなく、もと優先度の高い課題（自転車通行空間や歩道の整備など）が山積しています。1月上旬から1ヶ月間、市が「道路整備アクションプラン2024」という計画について市民意見（パブリックコメント）を募集します。

また1月下旬締切ですが「自転車活用推進計画」も意見募集しています。ぜひ皆様の意見を市へ届けてください。



市民意見の募集サイト↑

会議規則が市民の常識に一步近づきました！

これまで議会を欠席する理由として「育児」と「介護」が認められていませんでしたが、今議会で規則を改正し、この2つが認められることになりました。しかし、福岡県議会など他の自治体の議会では「家族の看護」や「配偶者の出産補助」も欠席理由として認められており、まだ市民の常識から遅れています。

緑と市民ネットワークの会



議会報告ニュース

[第21号]

公式サイト <http://midoritonet.info>

冬 / 春
2021号

発行:緑と市民ネットワークの会/〒810-8620 福岡市中央区天神1-8-1 福岡市役所 議会棟11階/TEL.092-711-4875/FAX.092-733-5881

福島第一原発事故から10年

\ 处理水を海洋に流すべきではありません! /

福島第一原発事故から10年となります。未だ事故は終息しておらず、廃炉の見通しも立たない状況です。事故で溶け落ちた核燃料が残る原子炉に地下水の流入が続き、放射性物質を含む汚染水が発生し続けています。放射性物質を除去した処理水は、現在は原発敷地内のタンクで保管されていますが、東電および政府はこれが限界に近づいているとして、海洋放出を検討しており、地元漁業者などが反対しています。この処理水には、**装置では除去できない放射性物質「トリチウム(三重水素)」**が含まれているからです。

玄海原発は全国一トリチウムの放出量が多いと言われており、玄海原発の稼働後に玄海町と唐津市で白血病が増加しているという研究結果があります。また長崎県でも、玄海原発近くの県北地域のほうが県南地域よりも白血病死亡率が高いということが、県の資料から分かっています。トリチウム水の海洋放出は、福島だけの問題ではなく、玄海原発から50kmに位置する私たち福岡市民の問題でもあると考えます。

12月議会で私たち会派は「福島第一原発における処理水について、慎重な対応を求める意見書案」を提案しましたが、賛成少数で否決されました。

政府は温暖化対策として原発の再稼働をめざしています。しかし原発は常に海水を温め、放射性物質を放出しており、さらに「核のゴミ」を子どもたちやその先の世代に押しつけ、労働者は被ばくのリスクも伴う、「環境にやさしくない」発電です。福島第一原発事故の悲惨な被害をみれば、**未来のエネルギーとして原発はありません!**

\ 福岡市にカジノはいりません! /

2020年8月、西戸崎地区の一部の住民が福岡市長と福岡市議会にIR(総合リゾート)の誘致の上申書を提出しました。IRの中心はカジノ(賭博)です。福岡市は9月議会で「誘致は検討していない」と答えていますが、市民の知らないところで進められることが危惧されます。

志賀島や西戸崎の方も上申書が出されるまではIR誘致の動きを全く知らず、報道を見て誘致反対の署名行動を起こしています。署名にご協力いただける方は、事務所までお気軽にご連絡ください。

賭博に依存する地域振興・地域経済はいりません!